

令和 4 年度 学校教育目標	思いやりの心を持ち、すすんで学び、たくましく生きる子どもの育成
----------------	---------------------------------

本年度の重点			年度末評価
重点目標 及び 指標	重点的取組	評価	○成果 ◆次年度に向けた方向性・改善点
<b>子どもの「学び」に関すること</b> <b>重点目標</b> 主体的に学ぶ子どもの育成 <b>指標</b> <学校生活アンケート> ①友達や先生の話最後まで聞いています。[90%以上] ②学習中に自分の考えを表現しています。[90%以上] ③学習をして、「分かるようになった」「できるようになった」ことが増えています。[90%以上]	①-1 「聞き方あいさつ」や「よい聞き方の姿勢」などのモデルの提示。 ①-2 子どもが聞きたくなるような場の設定。 ②-1 個人思考の時間の確保。 ②-2 「発表の仕方・上津役小スタンダード」の作成と実践。 ②-3 考えを作成するステップ「上津役小スタンダード」の作成 ③-1 多様な考えに触れるための協働的な学びにおけるICTの活用 ③-2 個別最適な学びにおけるICTの活用ドリルアプリの活用 ③-3 問題解決的な学習の充実	B	①友達や先生の話最後まで聞いています。[97%]→達成 ○「聞き方あいさつ」や「よい聞き方の姿勢」などの教室掲示を参考に、話し手を見て聞く聞き方が定着した。 ②学習中に自分の考えを表現しています。[86%]→※未達成 今後の課題 ◆考えを作成するステップが、具体的にどこまでできたら考えを表現したことになるのかを確認し、1 自分で考えたことをノートに書く 2 近くの人と、同じところや違うところを話し合う 3 みんなで伝え合う 4 もう一度、自分の考えを振り返る ③学習をして、「分かるようになった」「できるようになった」ことが増えています。[95%]→達成 ○ICTの活用により、友達が多様な考えに触れ、自分の考えと同じところや違うことを比べやすくなった。また、調べ学習を中心に、進んで学習に取り組めるようになった。
<b>子どもの「心の育ち」に関すること</b> <b>重点目標</b> 相手の気持ちを考えて、行動ができる子ども <b>指標</b> <学校生活アンケート> ①自分も相手も気持ちがよくなるあいさつをしています。[90%以上] ②相手の気持ちを考えて、あったか言葉を使っています。[90%以上]	①-1 相手より先に挨拶をすることを啓発するポスターの作成。(委員会を中心に) ①-2 あいさつ週間の設定。(自分から挨拶する人が増えました等、放送する) ②-1 重点的な「あいすがすきだ」の実践。キャラクターの活用。 ②-2 年間計画に沿って道徳科の授業や「北九州市子どもつながりプログラム」を実践。 ②-3 子ども一人一人が活躍できる場を設定する。(係、当番等)	B	①自分も相手も気持ちがよくなるあいさつをしています。[89%]→※未達成 今後の課題 ◆全体的にあいさつができる子どもは増えている。しかし、自分からあいさつをすることがどうしても恥ずかしいと感じる子どももいると思う。そこで、子どもにもわかりやすいスモールステップ 1 会釈をする 2 あいさつをされたら返す 3 自分からあいさつする など、段階の目安を作って来年度も引き続き取り組んでいく。 ②相手の気持ちを考えて、あったか言葉を使っています。[92%]→※達成 ○各教室で取り組んでいる「あったか言葉の木」や、子どもたちのあったか言葉を集めた「あったかポスト」の放送が、「自分もあったか言葉を使ってみんなに喜んでもらいたい」という思いをもつことにつながった。
<b>子どもの「体力」に関すること</b> <b>重点目標</b> 運動能力の向上 <b>指標</b> <学校生活アンケート> ①自分の体力は、向上しています。[90%以上] ②体育の授業で、「できなかったこと」が「できる」ようになっていきます。[90%以上]	①「ジャンプアップ運動」や「ボディバランス運動」などを授業の導入時に行う。また、全学年で新体力テストを実施し、記録を蓄積する。 ②子どもの実態に応じて、次のように場を工夫する。 ・動きのポイント等を提示 ・個に応じた場の設定 ・ICT(タブレット端末)の積極的活用	B	①自分の体力は、向上しています。[87%]→※未達成 今後の課題 ◆「ジャンプアップ運動」や「ボディバランス運動」を授業導入時に行うことで、子どもたちの体力は向上しているが、子ども自身が実感していない。そこで、体力の向上が実感できるよう、既存の握力コーナーなど、遊びの中で体力の向上を育む取組をさらに広げていく。 ◆体力向上週間を設定し、昼休みに体育館で反復横跳び、上体起こし、立ち幅跳び、長座体前屈、ボール投げ(新聞紙を丸めたものを壁に向かって投げるなど)の新規コーナーを設置する。 ②体育の授業で、「できなかったこと」が「できる」ようになっていきます。[91%]→達成 ○ビデオ教材やICTで運動の重点ポイントや自分の動きの様子を友達同士で確認しやすくなり、具体的なアドバイスができることから、できた実感を得やすくなった。
<b>特別支援教育に関すること</b> <b>重点目標</b> 子どもの特性に応じた指導の充実 <b>指標</b> <学校生活アンケート> ①「かっ」となっても、がまんできます。[90%以上] ②教室にいと、ほっとしたり、安心したりする気持ちになります。[90%以上]	①コグトレやアンガーマネジメントなど、特別支援教育に係る研修を行い、実践する。 ②現状をつかみ、有効な方策をさぐるため、次のような手立てを講じる。 ・学期に1度のアンケート ・特別支援教育部で情報交換会 ・職員全体で情報交換会	B	①「かっ」となっても、がまんできます。[81%]→※未達成 今後の課題 ◆アンガーマネジメント研修での指導助言を生かし「かっとなったときにやってみよう」の教室掲示を行い、活用した。今後も結果が表れるまで、セルフコントロールのための取組は年間を通して行っていく必要がある。 ②教室にいと、ほっとしたり、安心したりする気持ちになります。[83%]→※未達成 今後の課題 ◆職員全体での情報交換を行い、子どもたちの現状を正しく把握して方策を立ててきた。今後も特別支援としてだけでなく、学級づくりとしてとらえ、学びに関することと横断的に取り組む必要がある。 ◆本年度に引き続き、個別の学力補充の場を確保する。また、わかる授業づくりに取り組む。
<b>働き方改革に関すること</b> <b>重点目標</b> ワークライフバランスを重視した働き方 <b>指標</b> <学校評価アンケート> ①業務改善を意識しつつ、やりがいをもって仕事ができる。[95%以上] ②1か月の在校等時間が45時間以内である。[95%以上]	①コロナ禍において、前例踏襲主義を脱却し、職員が知恵を出し合ってよりよい取り組みを創り出す風土を大切にしている。 ②一人一人が月2回以上の「わたしの定時退校日」を設定し、職員全員がより意識して実行できるような環境を整える。	C	①業務改善を意識しつつ、やりがいをもって仕事をしている。[93%]→※未達成 今後の課題 ◆前例踏襲主義を脱却し、職員が知恵を出し合ってよりよい取り組みを行ってきたが、さらなる改善が求められる。4月のうちに、年間行事に沿って事前準備ができるようにするため、より具体的な来年度の年間行事を作成し配布する。 ②1か月の在校等時間が45時間以内である。[86%]→※未達成 今後の課題 ◆一人一人が月2回以上の「わたしの定時退校日」を設定し、職員全員が定時退校を意識してきた。さらなる仕事削減、負担軽減のため、今後は同学年で教材準備等共有するなど、職員の協力体制を工夫する。

<b>「学校運営協議会委員」等からの意見を記入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営が細やかな方法で行われている。また、学校の職員、保護者、地域が同じベクトルを向くように取り組んだことは大変評価できる。</li> <li>・ホームページの写真や校長のコメントにより、子どもたちの学校での様子がよくわかる。このことが家庭での子どもと話す機会につながっている。</li> <li>・あいさつについては、子どもよりも大人(親)ができていないと感じる。ここから変えていけるとよい。地域も共に汗を流したい。</li> <li>・不登校フォローは保護者へのアプローチも必要。「ステップアップルーム」等、その体制づくりを検討することを期待する。</li> <li>・地域に支援する体制がある。学校と地域の情報交換のやり方には課題があるので、メール等の連携の方法を検討することを期待する。</li> </ul>
-----------------------------	---